

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501152
法人名	特定非営利活動法人虹の会
事業所名	グループホームいそねの里
所在地	福岡県北九州市小倉南区中曽根東2-16-36 (電話) 093-475-5583

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 7月 30日
評価確定日	H21年 9月 14日

【情報提供票より】 (平成21年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 8月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	14 人
常勤	14人
非常勤	0人
常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成21年7月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	77 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人木村内科外科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は北九州市の南端、足立山の裾野に田園が広がるのどかな場所で、旧北九州空港の跡地が目前にあり、宅老所(デイサービス)が併設されている。地域密着型の新たな理念の下、職員は利用者との心のふれあいを大切に、本人が持てる力を発揮して、その人らしい暮らしが出来るよう本人本位の介護を目指している。また、家族との連携を図りながら、看取りを含め家族、利用者との納得のいく介護に取り組んでいる。サービスの質を向上させていくため、同業者との勉強会を開催し、職員の交換研修や管理者の情報交換を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、改善シートを作成し、全職員で協働して新たに運営理念を作り上げる等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員の意見を聴取し、管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をし、率直に意見や要望を言える関係作りを努めている。また、会議録を作成している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	来訪時及び年1回の家族会議で家族等の意見を聴取し、運営に反映させるよう努めている。また、家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。地域行事や清掃活動への参加、近隣保育園との交流がある。また、近隣の専門学校から実習生や高校生のボランティアを受け入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「心のふれあいを大切に地域とともに歩みます」と、地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、各ユニットの会議時に理念から具体的なケアについて意見の統一を図り、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域行事や清掃活動への参加、近隣保育園との交流がある。また、近隣の専門学校から実習生や高校生のボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員の意見を聴取し、管理者が集約している。前回評価での改善課題については、改善シートを作成し、全職員で協働して新たに運営理念を作り上げる等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をし、率直に意見や要望を言える関係作りを努めている。また、会議録を作成している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみの連携に留まっている。	○	事業所が抱えている問題の相談や現状を報告する機会をつくる等し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでほしい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は制度についての研修を受講し、利用者・家族等へ入所時や折に触れて説明している。テキストや資料、研修報告がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行の事業所便りと併せて、手紙や写真を郵送している。家族来訪時に暮らしぶりや健康状態などを報告し、緊急時は電話連絡を行っている。金銭管理については、預かりを行っていない。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時及び年1回の家族会で家族等の意見を聴取し、運営に反映させるよう努めている。また、家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	労働条件を改善し、職員の親睦を図る等して、離職を必要最小限に抑える努力をしている。また、職員が離職等した場合、利用者へのダメージを防ぐため、職員間の引き継ぎ期間を十分に設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては性別や年齢、資格の有無を理由に採用対象から排除することはない。定年後も働く意欲のある人は、継続採用している。また誰もが平等に昇進や教育訓練を受けることも出来、安心して働ける環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>全職員が人権に関する内部、外部研修に参加している。一部の職員が参加した研修は、他の職員に伝達研修をする仕組みがある。研修に参加したテキストや資料、研修報告、会議録がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員が働きながら資格を取得できるよう配慮している。また、外部研修受講者による伝達研修を行っている。研修資料等がある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者及び職員は、近隣事業所と交換研修を行って情報交換する等し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、事業所の見学や自宅訪問等、面談を行っている。やむを得ず即利用の場合は、場の雰囲気徐々に馴染み、安心感を持てるよう支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や洗濯物たたみを共に行い、梅干しの漬け方等職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらう場面がある。また、職員は利用者から労ってもらえることがある等、本人を介護される一方の立場におかず、利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者本人の意向を確かめながら一人ひとりの思いや希望の把握に努め、支援している。また、意思疎通が困難な利用者には、家族等から情報を得たり職員で話し合っ、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族来訪時に家族から意見を聴取し、職員の気付きやアイデアを反映した個別具体的な介護計画を作成している。家族の署名・押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、利用者を見舞いながら、本人・家族・医療機関と連携を図り、早期退院へ向けて取り組んでいる。本人や家族等の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援は、柔軟に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関で受診できるような体制を構築している。また、事前に家族等と受診時の通院介助の方法、情報伝達の方法について話し合い、支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について方針があり、入所時に家族へ説明し、署名・押印をもらっている。家族・かかりつけ医と話し合いを行って合意を図り、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に接遇研修を行い、内部・外部研修やミーティングにて意識向上を図っている。また、日常的にプライバシーの確保について管理者等が注意し、対応に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調等に配慮しながら、その日そのときの気持ちを尊重して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。職員は介助をさり気なく行い、利用者と同じものを同じテーブルで食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等にあわせて、柔軟に対応して入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の人については、その原因を探る等し、一人ひとりのタイミングや意向、希望に応じた入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意分野を把握し、配膳、洗濯物たたみ、習字、梅干し作り、床漬等、利用者の生活歴や趣味等を活かして、役割や楽しみごとを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望また天候等に配慮して、散歩や買い物、ドライブ、外食等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関を施錠していない。職員は利用者の外出傾向等を把握しており、見守り等を行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備している。年2回、消防署の協力による避難訓練を実施している。	○	今後はいざという時のために、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常用食料や飲料水、備品等を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は利用者の嗜好を考慮し、栄養士が作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を設置して自然採光を取り入れ、季節の花を飾って季節感を取り入れている。不快と感じる音や光はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものや好みのものが持ち込まれ、個性的な居室となっている。本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。